

ハ、年々花は葱増有難くお誦しませ

長年短歌の道に在りて精進し居る

小方と小生おたのしみ合はれし頃、

捨る人留むるお書は、きり分りました。回

近の歌い紙み居る雅語と俗語、文語

とは語の便配も、と先ず小たか立派な

になつて了。た、編集の上、一年中の書

あつた順、それから入る。例へば、大

のうまい改め、また生きた居る小の歌

同の二とを秩序立てたかよめ、たの